

■編著者紹介(執筆順)

星野 英一(ほしの・えいいち) 琉球大学法文学部教授 第1章、第2章

1953年生、デンバー大学国際学大学院修了。著書に「対外政策決定における世論：戦争の記憶と忘却をめぐる」(『東京女子大学比較文化研究所紀要』第68巻、2008年)、「『基地のない沖縄』の国際環境」(宮里政玄ほか編『沖縄「自立」への道を求めて：基地・経済・自治の視点から』高文研、2009年)、「沖縄の米軍基地と人間の安全保障」(『琉球大学法文学部 政策科学・国際関係論集』第15号、2013年)等。

島袋 純(しまぶくろ・じゅん) 琉球大学教育学部教授 第3章

1961年生、早稲田大学政治学研究科博士後期課程満期退学、博士(政治学)。著書に「沖縄の自治の未来」宮本憲一ほか編『沖縄論』(岩波書店、2010年(共著))、「『沖縄振興体制』を問う」(法律文化社、2014年(単著))、「沖縄が問う日本の安全保障」(岩波書店、2015年(編著))等。

高良 鉄美(たから・てつみ) 琉球大学法科大学院教授 第4章

1954年生、九州大学大学院法学研究科博士課程単位取得満期退学。1989-91年、バージニア大学ロースクール客員研究員。著書に『沖縄から見た平和憲法』未來社、1997年(単著)、「憲法から見た普天間問題」法律時報2010年8月号、「沖縄における人権問題：復帰40年を迎えて」『人権と部落問題』839号、2013年、「復帰直前期の沖縄における憲法状況」琉大法学93号、2015年等。

阿部 小涼(あべ・こすず) 琉球大学法文学部教授 第5章、第6章

1967年生、一橋大学大学院社会学研究科修了。著書に「ヘイト・スピーチ、抗議の言葉、沖縄における言説の闘争」(『言葉が生まれる、言葉を生む：カルチュラル・タイフーン2012 in 広島ジェンダー・フェミニズム篇』ひろしま女性学研究所、2012年)。「皮膚と反復」(李静和編『残傷の音：アジア・政治・アートの未来へ』岩波書店、2009年)、「繰り返し変わる：沖縄における直接行動の現在進行形」(『政策科学・国際関係論集』第13号、2011年3月)等。

里井 洋一(さとい・よういち) 琉球大学教育学部教授 第7章

1955年生、琉球大学法文学部史学科卒、1989年まで中学校教諭。著書に「深く学ぶことへの試み：『知識構成型ジグソー法』への本質理解と内容」(『歴史と実践36号』2017年)、『中学生の歴史』(帝国書院、2001年～現在、著作者)『平和のためのガイドブック沖縄』(クリスタル出版、1995年、編著)『『軍縮』授業構想序説：不発弾モデルの提案』(『琉球大学教育学部紀要43集』1993年)等。

山口 剛史(やまぐち・たけし) 琉球大学教育学部准教授 第8章

1971年生、琉球大学教育学研究科修了。著書に「第3章 教育と継承 第3節 沖縄戦と教科書」(沖縄県教育庁文化財課史料編集班編集『沖縄県史 各論編 第6巻 沖縄戦』沖縄県教育委員会、2017年)、「海洋領土紛争を学ぶ3国共同教材開発の歩み：「生活圏」の教材化の試みから」(山口剛史編『平和と共生をめざす東アジア共通教材 歴史教科書・アジア共同体・平和的共存』明石書店、2016年)、等。